

綿の栽培

○種まき

- ・ 5月上旬（八十八夜のころ）
- ・ 日当たりの良い場所
- ・ 水はけのよい土
- ・ 鉢植えの場合（直径 25 cmの深鉢）
- ・ 地植え 20 cm～30 cm間隔

○肥料

- ・ 油粕、骨粉などあまり強くないものを使用

○水遣り

- ・ 土が乾かない用に水をやる（朝夕の2回）

○育て方

- ① 種は一晩水につけておき、浅く穴を掘って3～4粒を入れ、土をかけて軽く押さえてたっぷり水をやる。
- ② 7日～10日ごろには芽が出る。
- ③ 本葉が6 cmから7 cmほどに成長したら肥料（一番肥）を施す。
- ④ 10 cmぐらいに育ったら一番元気な苗を残して間引く（根元をハサミ等で切る・引き抜かない）。
- ⑤ 20 cmに伸びたら倒れないように添え木をする。
- ⑥ 6月下旬、追肥（二番肥・適量）を施す。
- ⑦ 7月中頃、綿木が60 cmに伸びたら、芯止め（芯を摘み取る）をする。
- ⑧ この頃には、つぼみ（蝶）が付き始める。
- ⑨ やがて、花が咲き朔（さく）と呼ばれる青い実ができる。
- ⑩ 7月下旬、追肥（三番肥・適量）を施す。
- ⑪ 8月のお盆のころより、下の枝から順に白い綿毛がふく。
- ⑫ ふいた綿は、雨にぬらさないように摘み取って、2～3日天日によく干し、種とワタを分ける。



苗をもらわれた方へ

○綿の苗はプランターか植木鉢に植え替えしてください。（土は園芸用の土で育ちます）

○育て方の③から進めてください。

○水遣りと肥料（油粕など）⑥⑩参考に施してください。

※夏の天候により、出来具合や収穫時期に差が出ます。種は、次の年にまくことが出来ます。

ふわふわの実がなったなら秋には収穫、回収します

綿の中から種を取り、来年また撒きます。綿から糸をよりますが、ここからは別途ご案内。

東大阪22会 連絡先 mori@higanpo.com